

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104969
法人名	東開メディカル有限会社
事業所名	グループホーム灯夢想家
所在地	鹿児島市東開町3-21 (電話) 099-260-3030
自己評価作成日	平成28年10月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携機関を持ち定期的に往診を受け、24時間オンコールに対応にて緊急時に適切な指示が得られ、健康管理を行っている。可能な限りホームでの看取りを実現するために医療と連携し、本人や家族の意思を尊重しながら対応に努めており看取りの実績もある。木造作りの明るく温かみのある環境の中で、その人らしさを尊重したケアに努め、利用者主体の生活環境の提供の支援に努めている。また、散歩やドライブ、外食の機会を設け、気分転換を図るとともに、年間行事を大切にし、花見や餅つき、迎え火等五感を刺激するような支援を積極的に行っている。

スタッフのキャリア形成のモチベーションが高く、在職中に資格を取得して勤続しており、企業としても資格取得への支援を行っている。職場内外の研修も積極的に参加しており、知識や技術の向上を図ることで働く意欲や質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【食の自立について】

・利用者の楽しみの一つでもある食事に特に力を入れているホームである。生活リハビリの観点からほぼ利用者全員の方が毎日調理の下ごしらえをするなど、家族のように協力し家庭的な雰囲気がある。また、外食を楽しむ機会も大切にしており、職員は利用者がメニュー表を見て注文のための予備練習を手伝っている。お花見には、手弁当を持参して移りゆく季節を感じ家族や職員と同じ時間を過ごしたり、気分転換をしている。利用者の中には、晩酌のビールを嗜む方もおられたり、お好きな方には、週1回刺身を提供している。

【運営推進会議について】

・会議は、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け双方向的な会議となっている。家族から、議題が少ないのではないかと意見があったり、外部評価アンケートでは家族代表から家族の参加を積極的に促す為、花見、敬老会、忘年会などの行事と同時開催してはどうかという意見も記されていた。今年4月の花見会では、ふれあいスポーツランドで会議を開いている。管理者は、行事だけでなく「救急救命法」「訪問マッサージの講話」など積極的に取り入れているが、地域の参加については十分ではない。地域の理解と支援を得るための機会でもあるため会議への参加を働きかけていく予定である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I . 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について、開設時に全職員で話し合いケアの道標として実践に繋げているとともに、今年度は会議で理念について理解を深める機会を設けている。	職員は日々や個々の目標を設定し理念に寄り添いサービスを提供している。地域との関わりを意識しているが、十分ではないと感じている。管理者や職員は会議の中で理念に触れ共有してよりよいケアに繋がるよう検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地は少ないが、町内会に加入し、地域清掃に参加している。また、ホームでのバーベキューに呼んだり、近隣の保育園の行事に参加することで地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、清掃活動を通じて地域住民と関わったり、保育園児との交流活動に参加しているが、相互交流までには至っていない。管理者は、地域への社会貢献活動を模索しており、地域との関係性を深めたいと考えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	見学や電話にて、認知症の相談を受けることがある。職員は実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で利用者の状況や支援の報告を行っている。ご家族の参加も多く、認知症の理解についてご家族同士で話すことで、安心されることも多くその中での意見をサービスの向上に活かしている。	家族から会議の議題が不足しているのではないかなど意見をいただき改善したり、花見の席は家族の参加も多く、救急救命法、訪問マッサージ師の講話などや行事に合わせるなど知識や技術の研鑽に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	県及び市の担当者とは、事業所の取り組みの報告、介護保険諸手続き、福祉手続き等相談しながら関係作りを積極的に行い、協力関係を構築している。	市担当者や福祉事務所担当職員とは、直接面談したり電話などで相談や意見交換をしたりと連携を図っている。また、介護相談員の受け入れにも柔軟に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議毎に身体拘束についての話し合いを行っている。日頃のケアの中でも“身体拘束ではないか”と常に意識を持ってケアに携わっている。問題行動がある場合はアセスメントを共有し原因を探ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間計画があり、内部研修をおこない、マニュアルの読み込みや拘束することの弊害について学んでいる。警察署からは、不審者対策の必要性を指導されており、大事なことは、侵入させないことだと助言されている。ふいに外出する利用者もいて、ユニットが1階、2階に分かれているため階段やエレベーターについては特に安全面を重視してケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、高齢者虐待防止関連法についての研修に参加し、虐待をしないケアの在り方をスタッフ全員で話し合い、虐待が行われない施設づくりを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	想家館に成年後見制度を利用している利用者が在席しているため、スタッフ会議で権利擁護に関する勉強会を行ったり、弁護士との連携の中で協力し支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用者の状態変化により契約解除に至る場合の説明は十分に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のケアの中から利用者の意見、面会時や運営推進会議の中で意見や要望を聞きながら職員で話し合い、具体的な取り組みについて振り返る機会を設けている。また介護相談員の訪問を受け、外部を通した利用者の意見をくみ取り日々のケアに活かしている。	ユニットごとに利用者の様相が異なり、1階は比較的ストレートに意見、要望を口される方も多いが2階は困難者が多い。家族の面会が多く、面談時や運営推進会議、行事を通じて意見などを聞き取り、出された意見などは職員全員で話し合い改善するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員と気さくに話ができるような雰囲気作りを行っている。職員間の関係も円滑であり職員会議の中でスタッフが活発に意見を出せる雰囲気作りができています。	人事考課システムがあり、ストレスチェックを実施し、職員のメンタル面についても把握して個人面談をおこなうなどしている。管理者はいつでも職員から意見、提案が出せる雰囲気や関係作りに力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より自己評価を取り入れ職務評価を行っている。資格取得者には資格手当や本人の意向や能力に応じた業務を行ってもらうことで意欲の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は日々のコミュニケーションや個人面談を通して個人の力量を把握し、事業所内外の研修に参加させている。事業所に在席中に介護福祉士と介護支援専門員の資格を取得しておりキャリア形成のモチベーションが高い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に席があり、研修に積極的に参加することで、同業者と交流する機会を提供しており、相互の情報交換等を行うことでサービスの質の向上へ活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族との事前面談を十分に行い、利用者の今までの生活歴や現在の生活状態を把握した上で本人の思いや不安を受け止め、安心して利用開始ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談に来られた際には、今までの経緯や家族の苦労を傾聴し、慰労の言葉をかけながら、家族がサービスとして何を求めているかを理解し、安心してサービスの開始ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人の状態、家族の実情や要望をもとに、その時点で何か必要かを見極め、事業所として出来る限りの対応に努めている。事業所だけでなく、地域と連携しながら必要に応じて他のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは年長者である利用者から家庭料理の作り方や季節の行事、生活の知恵等について教えられたり、逆に労ってもらったり、励ましてもらう場面も多く共生の意識で生活を支え合う関係ができている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には居室にてゆっくり話ができるような環境を提供している。また、スタッフから利用者の近況を伝え、情報を共有する中で、家族が出来る役割を話し合いながら積極的な関わりを行って頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人や近所の方、宗教関係の面会等が来られ、居室でゆっくり時間を過ごして頂けるよう支援している。宗教関係の方は一緒に参拝に行く関係にもある。また家族の協力の下、定期的に墓参りをしている。	理美容院の利用者は送迎つきで利用されたり、家族と一緒にいられる方がおられる。また、昔の職場の同僚の方が遊びに訪れる利用者がいたり、携帯電話で自由に電話を掛けてお話しを楽しまれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についてスタッフ間で情報の共有を行い、ホールで座る位置の調整を行ったり、お茶や食事の際は一緒に過ごし、多くの会話をもち、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の転院先にお見舞いに行ったり、家族への状況の確認を行い随時介護相談を行っている。退去者の紹介で入居相談に来られる方も多い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは日々の関わりの中で、その人らしさを知ることがケアの第一歩であることを認識しており、本人の思いに添ったケアはどうあるべきかを常に意識している。	職員は、生事例を紐解き意見交換することで本人や家族の思いを共有し、その人らしい生活を重視したケアの方向性を見極めて家族と情報を共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用時生活歴やライフスタイル、個性や価値観を出来る限り把握している。また、本人から伺えない場合は、家族や知人などからその人らしさの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは、利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、些細な言動から本人の出来る力を暮らしの中で発見し、その人らしさを把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく生活できるように要望を聞き、家族やスタッフの気づきや意見、要望を聞きながらアセスメント及びモニタリングを行い、個別の介護計画の作成を行っている。	アセスメント結果を分析し、3ヶ月ごとに評価、6ヶ月に1回見直しをしている。今年度研修計画では、5月に初任者、中堅職員を対象として、介護計画に沿ったケアの提供を目標とした勉強会を開催した。本人らしい生活を反映した個別性のある介護計画になっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分量、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子、スタッフの気づきやエピソード等記録している。生活介護記録は情報共有としてスタッフ全員が目を通すとともに、全体・個別の連絡帳も活用し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が高齢であり、医療ニーズが高いこともあり、新杏クリニックや調剤薬局との医療連携を図り健康支援や看取り介護を行っている。またグループホームで生活していく上で対応が困難な場合に備え有料老人ホームとの連携も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のボランティアに来て頂く等意見交換や交流の場を設けている。消防署には年2回の消防訓練実施の際に立ちあいや指導をもらい、協働で施設の防災に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にかかりつけ医の希望を尋ね、また事業所の連携医についても説明を行い利用者、家族の希望を伝えてもらっている。外部受診については家族と協力して行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医であり、定期受診は家族、他科受診は家族や職員が協力して受診している。月2回、訪問診療の方もおられたり、医療連携が図れており、常時適切な医療が受けられている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日来訪する在宅看護師に日常の関わりの中で気付いた些細な状態変化を伝え、相談し、看護師が受診すべきか様子観察でいいのか判断している。状態によっては臨時往診を受け、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人への支援方法に関する介護サマリーを医療機関に提供し、また頻繁に見舞いに伺うようにしている。また、家族や医療機関と連携をとりながら対応可能な限りなるべく早期に退院できるようにアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期に向けた方針を説明し同意を得て入居後にも利用者の状態に応じて面談の機会を設け、早い段階から終末期の在り方について家族と話し家族の意向を随時確認しながらかかりつけ医と連携しながらチームで取り組んでいる	2階ユニットに2～3年前からターミナルと診断されケアしている方がおられるが、現在は安定し共同生活を満喫している。重度化した場合は早い段階から本人、家族とその都度話し合い、意向を確認しながら主治医、関係機関と協議しチームケアにて取り組む体制が構築されている。「意志確認書」については今後内容を検討する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年は異物除去法の講話を受け、急変時の対応については医療関係期間などの協力でその都度勉強会を実施し、体験・体得・習得するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、有料老人ホームと共同で利用者と共に訓練を行い、避難経路の確認、避難の仕方、等を学んでいる。また防災マニュアルを作成し、あらゆる災害を想定し確実な避難誘導ができるよう備えている。	職員は、年1回「災害マニュアル」を見直ししている。昨年11月、地震想定で関連施設と合同の避難訓練を実施した。2階ユニットからの避難訓練も外階段を使用し実践しながら訓練を実施している。また、水や乾パン、レトルト食品などの備蓄も完備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは入職時に個人情報に関する説明を受け、プライバシー保護の徹底や個人情報漏洩防止について守る責任を教育されている。また、今年度はケース会議を通して尊厳に配慮したケアについて学ぶ機会を設けた。	研修会を年1回おこなっているが、今年は入所者の尊厳を守るケアについて知識を研鑽したり、事例検討をして具体的に重要なポイントを理解し、個人情報も適切に取り扱うよう確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が会話に表れた時にはゆっくりと受容、傾聴を行い、自己決定ができるような対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な生活時間はあるが、希望に応じて食事時間をずらしたり、外出支援を行っている。その日その日の本人の気持ちを尊重し、個別性のある暮らしの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	生活習慣や好みに合わせて本人主体で身だしなみを整えてもらっており、不十分な所はスタッフにてさりげなく直すなどしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を取り入れながら季節を感じられる献立を考え、調理の手伝いをもらい利用者と一緒に食事作りを行っている。買い物へ一緒に出向く機会もある。時には、外食や出前をとるなどして食の楽しみがある。	献立は1週間ごとに作成し、週1回刺身を提供している。利用者と職員が買い物に出かける機会もあり、朝食後は、両ユニットの利用者が積極的に料理の下ごしらえをしている。利用者は、手作り弁当を持って外出したり、握り寿司などの出前を楽しんだり、ビールで晩酌される方もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の生活介護記録に一人ひとりの食事量を記載し、情報の共有を図るとともに、定期的に採血を実施し、その結果に基づき食事カロリーや塩分制限、水分量の指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフは口腔内の清潔の意義を理解し、1人1人の力に応じて歯磨きの声かけや義歯の消毒、個人の状態によって洗口液や歯間ブラシの使用を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の生活介護記録の中で排泄パターンを把握し、本人にあった下着やオムツを検討している。また事前の声かけやトイレ誘導を行うことで、排泄の自立支援へ繋げている。	排泄パターンを把握し、昼間はトイレでの排泄支援、夜間はポータブルトイレやおむつ対応にて本人に適したおむつ選びにも配慮している。概ね布の下着に尿パットを当て気持ちよく過ごせるよう取り組んでおり、散歩や乳製品を取り入れ便通が整えられるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病歴や服薬内容を理解し、様子に変化が現れた時には排便の有無を確認できるよう個別の生活介護記録に記載している。日頃から乳製品を取り入れ、身体を動かす機会を設け、自然排便を促す工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者のその日の体調や気分に応じて入浴をして頂いている。また入浴を拒む人に対しては、言葉掛けや対応の工夫、チーム連携等によって1人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。	入浴の順番にこだわることなく順序よく入浴を楽しんでいる。入浴をためらう利用者も職員が連携し、チームプレイにて入浴をされ気持ちよく過ごしている。入浴剤を活用し温泉気分で入浴していただくなど、入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の今までのライフスタイルやその日の体調等に合わせて休息や睡眠がとれるよう支援しており、なるべく日中の活動を促し、生活のリズムが整えられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携する薬剤師指導の下、服薬方法や注意事項について情報共有できるよう薬剤情報のファイル作成と医療連携受診表への薬剤師からのコメント記載の記録を残し、服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いや散歩や歌等、日々の言動の中から本人のニーズをくみ取っており、また今まで続けてきた趣味を継続できるように本人が主体となるようなお茶や書道等の機会を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩に行き、またその季節に応じた花や風景を眺めにドライブや外出へ出かけている。また、家族と墓参りや自宅への帰省、外出などこれまでの生活の継続となるような外出支援も家族と協力しながら行っている。	天候をみながらマンツーマンで散歩される方がおられたり、季節によっては、月2～3回程度ユニットごとにドライブに出かけお茶をしたり、外出している。また、定期的に外泊される方もいる。恒例の初詣、近隣の運動公園に家族も一緒に外出することもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に本人の能力に応じてお金を所持したり、買い物に行く事ができない時には希望を尋ねて代理で買い物を行うことで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人からの電話の引き継ぎや希望時には手紙のやりとりができるよう支援している。携帯電話を所持している利用者には、必要時には電話を繋ぐ支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	純木造建築となっており、陽の光が差し込み明るく暖かい作りとなっている。テレビ前には椅子が設置してあり、居心地良く過ごせるようになっており、また、季節の花を飾ったり、利用者の作品を掲示したりすることで自然と会話が生まれ、共有空間が出来ている。	温かみのある木造建築で、広々とした共有スペースでは、利用者が調理の下ごしらえをしたり、朝刊を読んだり、写経するなど思い思いの時間を過ごしている。1階、2階のユニットに分かれているが、エレベーターもあり内扉で仕切り鈴を着けて注意喚起するなど安全面にも配慮している。もみじのタペストリーが季節を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を広くとっており、時にはテレビ前の椅子でおしゃべりをしたり、時には自席で新聞を眺めたり、色塗りや計算の続きをしたり、と思い思いに過ごせるような居場所となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた家具を持ち込み、鉢花や仏壇、テレビなどこれまでの暮らしを想像できるような居室になっている。	骨董品の神棚や仏壇など馴染みの物を持ち込んでいる。ご夫婦で入所されている方があり、テレビは一緒に鑑賞するなど夫婦だけの時間も流れている。また、観葉植物がお好きな方もおられ職員は水やりや手入れに余念がない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーに配慮されている。また利用者の状況に応じて居室の滑り止めマットやベットのサイドの介助バー、センサーマットの使用を行い、安全確保と自立への配慮を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない